

徳山工業高等専門学校研究紀要投稿の手引

(2017年5月16日改正)

紀要編集委員会

1. 投稿者

投稿にあたっては徳山工業高等専門学校研究紀要（以下「研究紀要」という。）投稿要項に従って下さい。原稿は研究紀要投稿要領に示す投稿資格個人（共著の場合代表者）の名で提出して下さい。

2. 原稿提出期日

原稿は紀要編集委員会で定めた期日に限り、受付けております。

3. 投稿原稿

3.1 投稿区分

研究紀要には、i)論文、ii)調査報告の投稿区分が設けられておりますので、投稿要項をご覧下さい。

3.2 原稿の具備すべき条件

投稿原稿の具備すべき条件として考えられるのは、

- 1)独創的であること
- 2)内容、記述について正確であり十分な推敲がなされていること
- 3)未発表であること

の3点があげられます。

3)に関して、既に発表した内容を含む原稿でも、次に掲げるいずれかの項目に該当する場合は投稿を受付けます。

- 1)新たな知見が加味され再構成された論文。
- 2)個々の内容については既に発表されているが、統合することにより価値のある論文となっているもの。
- 3)限られた読者にしか配布されない刊行物に発表された論文。

個々の論文がこれらに該当するか否かの判定は紀要編集委員会で行います。

この判定を容易にしました正確を期すため、投稿にあたっては、既発表の内容を含む場合、あるいは関連した内容の場合には、これまでどの部分を、どの程度、どの刊行物に発表してあるかを論文中に明確に記述して下さい。

なお、ひとつの論文はそれだけで独立したものでなければなりません。非常に大部な論文を連載形式で完結するという事は避けて下さい。

3.3 原稿のまとめ方

原稿は次のようにまとめて下さい。

- 1)目的を明示するとともに、重点がどこにあるかが容易にわかるように記述して下さい。
- 2)既往の研究・技術との関連を明らかにして下さい。すなわち、従来の研究・技術、調査のどの部分を発展させたのか、どのような点がユニークなのかを示して下さい。
- 3)原稿は要点をよくしぼり、簡潔に記述して下さい。原稿は表題、英文要約

(Abstract)、本文、必要に応じて謝辞、文献の順とし、本文にまえがき、あとがきまたは結論をおく。ただし、和文縦書きについては英文要旨を省略することができます。本文の原稿は、例えば次のような順序で記述するとよいと考えられます。

- ① 目的
- ② 方法
- ③ 結果と考察
- ④ 結論

4) 論文の表題は簡潔で、その内容を十分に明らかに表現するものとして下さい。原則として30字以内(英文15ワード以内)とします。副題を付することや長い論文を分割して、その1、その2…とすることは認めません。

3.4 キーワードについて

内容を十分に表わすキーワードを英語で3～5個選んで所定の個所に記入すること。

4 閲読

4.1 閲読の目的

投稿原稿(論文、調査報告)が、研究紀要に掲載される原稿として、ふさわしいものであるかどうかを判定するための資料を提供することを目的として閲読が行われます。閲読に伴って見出された疑義や不明な事項について修正をお願いしますことがあります。

ただし、原稿の内容に対する責任は本来著者が負うべきものであり、その価値は一般読者が判断すべきものであります。

4.2 閲読依頼

閲読は投稿論文内容を考慮し、紀要編集委員会より原則として投稿者所属の学科主任に依頼し、学科内で行います。

4.3 閲読の方法

4.3.1 評価

閲読にあたり、投稿原稿がその分野においていかなる位置づけにあるか、研究・成果発表の貢献度が大きいかなどの点について、以下の項目に照らして客観的に評価します。

(1) **新規性**: 内容が公知・既発表または既知のことから容易には導き得るものでないこと。たとえば、以下に示すような事項に該当する場合は新規性があると評価されます。

- a) 主題、内容、手法に独創性がある。
- b) 学界、社会あるいは学校教育に重要な問題を提起している。
- c) 現象の解明に大きく貢献している。
- d) 創意工夫に満ちた教育実践等について貴重な検討、経験が提示されている。
- e) 困難な研究・技術的検討をなしとげた貴重な成果が盛られている。
- f) 時宜を得た主題について総合的に整理し、新しい知見と見解を提示している。

(2) **有用性**:内容が工学上、工業上、実用上または教育上何らかの意味で価値があること。

たとえば、以下に示すような事項に該当する場合は有用性があると評価されます。

- a)主題、内容が時宜を得て有用である。
- b)調査・研究・技術の応用性、有用性、発展性が大きい。
- c)調査・研究・技術の成果が有用な情報を与えている。
- d)実験、実測あるいは調査のデータで研究または教育方法等の参考として寄与する。
- e)新しい数表・図表で応用に便利である。
- f)当該分野での研究・技術のすぐれた体系化をはかり、将来の展望を与えている。
- g)調査・研究・技術の成果は実務にとり入れられる価値をもっている。あるいは教育実践の可能性が高い。
- h)本原稿を掲載することは高等教育および高専教育に益するところが大きい。
- i)今後の教育活動、学校運営に取り入れる価値がある。
- j)問題の提起・試論またはそれに対する意見として有用である。

(3) **完成度**:内容が簡潔・明瞭に記述されていること。

本論の展開が読者に理解できるように記述されているかについて評価します。ただし著しい厳密さ、正確さ、完璧さ、格調の高さ等は必要としません。次のような点についても留意して評価します。

- a)全体の構成が適切である。
- b)目的と結果が明確である。
- c)既往の調査・研究・技術との関連性は明確である。
- d)文章表現は適切である。
- e)図・表はわかり易く作られている。
- f)全体的に冗長になっていない。
- g)図・表等の数は適切である。

(3) **信頼度**:内容に重大な誤まりがなく、また読者から見ても信用の置けるものであること。次のような点についても留意します。

- a)重要な文献が落ちなく引用され、公平に評価されている。
- b)従来からの技術や研究成果との比較や評価がなされ、適正な結論が導かれている。
- c)実験や解析の条件が明確に記述されている。

4.3.2 登載承認

登載の承認は、閲読結果に基づいて紀要編集委員会で行います。閲読者からの修正意見があれば、修正依頼を行います。必要があれば修正意見を出した閲読者に再閲読をお願いすることもあります。

4.4 論文・調査報告以外の原稿の閲読

原則として紀要編集委員会において行います。登載可否については 4.1 に準じて行います。

5.投稿原稿と印刷原稿

投稿原稿とは、論文の閲読の段階で用いるための原稿をいいます。

印刷原稿とは、閲読終了後に印刷用に提出する原稿で、その投稿方法は2種類に大別されます。

- a) P D F ファイル原稿
- b) 版下原稿 (Word ファイル)

6.ページ数

研究紀要のページ数は、次のとおりです。

人文系論文・報告	16ページ程度
その他の論文・報告	10ページ程度

7.著作権について

- (1) 著作権（著作者人格権を除く）が徳山工業高等専門学校に帰属することにより、国立情報学研究所の電子図書館や本校のホームページに全文掲載されることが可能になります。
- (2) 研究紀要に掲載された個々の著作物の内容については投稿者が責任をもつことになります。
- (3) 著作権（著作者人格権を除く）は機関に帰属されますが、著者が自分の業績をまとめる際に使用する場合や著者が営利を目的とせずに行う複製の権利は、著者に残すものとします。

8.その他

- (1) 投稿原稿は、提出日を受理日とします。
- (2) 投稿原稿は、体裁上最小限必要とされる条件が満足されているかどうかのチェックがなされ、これが満足されていない場合は受付を一時保留し、原稿を返送するか、もしくは著者に問合せを行います。
- (3) 提出された原稿は、投稿原稿、印刷原稿ともに研究紀要発行時に返却いたします。
- (4) 個々の原稿についての閲読内容は著者以外に公表いたしません。
- (5) 投稿に関する問い合わせは下記の係までご照会下さい。
学生課学生支援係（内線 6212）